

● 韓 国

マクロ経済動向

韓国銀行(中央銀行)が4月26日に公表した2022年第1四半期の成長率(速報値)は、季節調整値で前期比0.7%となり、前期の同1.2%を下回った。需要項目別に見ると内需では、最終消費支出は同▲0.4%で前期の同1.5%からマイナスに転じた。固定資本形成は同▲1.8%でやはり前期の同1.5%からマイナスに転じた。その内訳では、建設投資はビル建設と土木工事の減少により同▲2.4%となり、前期の同2.9%からマイナスに転じた。設備投資は一般機械及び輸送機械部門の減少により同▲4.0%となり、前期の同▲0.7%からマイナス幅が拡大した。外需である財・サービスの輸出は半導体、石油・石炭製品の輸出の伸びにより同4.1%となった。前期の同5.0%からは低下した。一方で財・サービスの輸入も原油の輸入の伸びで同0.7%となった。前期の同4.8%からは低下した。

2022年第1四半期の鉱工業生産指数伸び率は季節調整値で前期比3.8%となり、前期の同1.1%から上昇した。月次では季節調整値で、2022年2月に前月比0.3%、3月に同1.3%となっている。

2022年第1四半期の失業率は季節調整値で3.2%であった。月次では2022年2月に2.7%、3月は2.7%となっている。

2022年2月の貿易収支(IMF方式)は43億ドルの黒字であった。

2022年第1四半期の対ドル為替レートは1ドル=1205ウォン、月次では2022年2月に同1198ウォン、3月に同1221ウォン、4月に同1235ウォンと推移している。

2022年第1四半期の消費者物価上昇率は前年同期比3.8%であった。月次では2022年2月に前年同月比3.7%、3月に同4.1%、4月に同4.8%と推移している。2022年第1四半期の生産者物価上昇率は前年同期比8.7%であった。月次では2022年2月に前年同月比8.5%、3月に同8.8%であった。

大統領選挙と保守政権の成立

3月9日に行われた大統領選挙で、保守系野党「国民の力」から立候補した前検事総長の尹錫悦(ユン・ソクヨル)氏が与党候補を破って当選した。尹氏は5月9日に大統領に就任する。朴槿恵(パク・クネ)政権の退陣以来、5年ぶりの保守政権の誕生となった。

新政権はウクライナ情勢の影響も受け、

安全保障面では米国との関係を重視するものと見られる。一方で、国会の多数は現政権の与党の革新系が占めており、政権運営は最初から困難が予想される。政権のナンバー2にあたる首相には韓惠洙(ハン・ドクス)氏を起用する。韓氏は官僚出身ではあるが、革新派の盧武鉉(ノムヒョン)政権で首相を務め、米韓自由貿易協定(FTA)の締結推進に取り組んだ経歴を持つ。新政権では国会で多数野党となる革新系との関係を意識した人事といえよう。

対日関係では尹氏は当選後の4月24日に、鄭鎮碩(チョン・ジンソク)国会副議長を団長とする代表団を日本に派遣し、岸田首相に親書を手渡した。同代表団は萩生田経済産業相らとも面談し、日本の対韓国輸出規制強化などについても協議した。新政権の徴用工訴訟への対応が、この問題を解決する鍵になると考えられる。

世界情勢の緊迫化の中で、安全保障、経済の両面で、尹新政権における日韓関係の改善が望まれるところである

ERINA 調査研究部主任研究員

中島朋義

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	21年 4-6月	7-9月	10-12月	22年 1-3月	22年2月	3月	4月
実質国内総生産(%)	3.2	2.9	2.2	▲0.9	4.0	0.8	0.3	1.2	0.7	-	-	-
最終消費支出(%)	3.1	3.7	3.2	▲2.4	4.1	3.7	0.2	1.5	▲0.4	-	-	-
固定資本形成(%)	9.8	▲2.2	▲2.1	2.6	2.5	▲0.4	▲2.2	1.5	▲1.8	-	-	-
鉱工業生産指数(%)	2.5	1.5	▲0.1	▲0.3	7.4	▲1.2	1.0	1.1	3.8	0.3	1.3	-
失業率(%)	3.7	3.8	3.8	4.0	3.7	3.7	3.1	3.4	3.2	2.7	2.7	-
貿易収支(百万USDドル)	113,593	110,087	79,812	80,605	76,207	19,149	21,124	16,652	-	4,273	-	-
輸出(百万USDドル)	580,310	626,267	556,668	517,909	650,015	158,781	165,957	178,019	-	53,870	-	-
輸入(百万USDドル)	466,717	516,180	476,856	437,305	573,807	139,632	144,833	161,368	-	49,597	-	-
為替レート(ウォン/USDドル)	1,130	1,101	1,166	1,180	1,145	1,121	1,158	1,183	1,205	1,198	1,221	1,235
生産者物価(%)	3.5	1.9	0.0	▲0.5	6.4	6.2	7.4	9.3	8.7	8.5	8.8	-
消費者物価(%)	1.9	1.5	0.4	0.5	2.5	2.5	2.5	3.5	3.8	3.7	4.1	4.8
株価指数(1980.1.4:100)	2,467	2,041	2,198	2,873	2,978	3,297	3,069	2,978	2,758	2,699	2,758	2,695

(注)国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数は前期比伸び率、生産者物価、消費者物価は前年同期比伸び率、株価指数は期末値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、鉱工業生産指数、失業率は季節調整値

国内総生産、最終消費支出、固定資本形成、生産者物価は2015年基準、消費者物価は2020年基準

貿易収支、輸出入はIMF方式、輸出入はfob価格

(出所)韓国銀行、統計庁他